

ムハンマドについての 言 (中)

:

明:イスラ ムについて学んだ非ムスリムの学者たちによる 言者についての 言。第2部: 彼らの 言。

目:[事イスラ ムによる利益イスラ ム、ムハンマド、そしてクルア ンに する著名な人々による 言](#)

目:[事 言者ムハンマド彼の性格](#)

より: iiiie.net (edited by IslamReligion.com)

03 Nov 2014

集日 03 Nov 2014

ラマルティ ヌ、Histoire de la Turquie, Paris 1854, Vol II, pp. 276-77:

“成した事の 大きさ、そこにおける手段の小ささ、 的 果が人 の才能の三大基 であるなら、 が近代 史を通してムハンマド以外の 人の名を げることができるであろうか?

最たる著名人は武器、法律、そして帝国を き上げただけである。彼らがもたらしたものは、大抵の 合、彼ら自身の目の前で音を立てて崩れ去った物 的な 力だけであった。

しかしこの男は 、法律、帝国、人 、王朝だけでなく、当 の世界の3分の1の人口にあたる数百万人の人々を かし、祭 、神々、 宗教、既成概念、信仰や魂を かしたのである。

利のための忍耐、そして彼の野望は完全に一つの理念に忠 であり、それは帝国のため

の努力ではなかった。彼による わりなき祈り、神との神秘的な会 、その死と、死 の 利

。これらはすべて、欺 ではなく、一つの教理を 活させようとの 意からもたらされた力

を するものである。この教理は神の唯一性、そして非物 性を えた2つの要素を持つもの

である。前者は神が何であることを述べ、 者は神ではないものを明 にするのである。そ

の一方は で邪神を倒し、もう一方では言 で新たな概念を めるのである。

“哲学者、雄弁家、使徒、立法者、 士、そして概念の征服者であり、偶像を持たない

教 という合理的教理を 活させた者、また20もの 史的帝国と一つの精神的帝国の 始者、

それがムハンマドなのである。人 の 大きさを るすべての基 において、我々は彼以上に 大

な者を知らないのだ。”

エドワード・ギボン、サイモン・オクリ、History of the Saracen Empire, London, 1870, p. 54:

“私たちの くに するのは、その布教ではなく、彼の宗教の不 性である。彼がマッカとマディナで刻み 込んだものと同じクルアーンが、インド、アフリカ、トルコの改宗者による12世に渡る革命の も、 かつ完全な状 で保持されているのだ。マホメット は教徒たちは一 に、彼らの信仰と崇 の内容を 少させる 惑に打ち ったのである。「私は唯一なる神の存在と、マホメットが神の使徒であることを信じる」という なものが、イスラムにおける不 の信仰 言である。神の知的なイメジは、いかなる可 の偶像によっても蔑まれたことはない。言者の名誉は、して人 的な美 の 域を超えることはなく、彼の生前の教えもその弟子たちの感 の念を理性と宗教の 内において抑制したのである。”

ボスワース・スミス、Mohammed and Mohammedanism, London 1874, p. 92:

“彼はカエサルとロマ教皇を一人に合わせた人物である。しかし、彼はロマ教皇の虚を くにしたロマ教皇であり、カエサルの群 を くにしたカエサルなのである。彼には常も、 も、 殿も、固定 入もなかった。もしも かに、神の 利において 治したと主 する 利があったとすれば、それはムハンマドに当てはまるのである。なぜなら、彼にはいかなる手段や支持者もなくして、すべての 力を手にしたからである。”

アーニ・ベサント、The Life and Teachings of Muhammad, Madras 1932, p. 4:

“アラビアの 大なる 言者についての人生と性格を学び、いかに彼が教えを き、そして生きたかを知る者は、至高者の 使徒の一人であり 大なる 言者である彼に し、敬意を感じずにはいられないのである。既に多くの人々にとっては既知の事 を私は述べ ねているのかも知れないが、私自身はそれらを み返すたび、 大なるアラビアの指 者に する新たな感 と、尊敬の念が生まれてくるのだ。”

W.モンゴメリ、Mohammad at Mecca, Oxford 1953, p. 52:

“信仰に する迫害に耐え忍ぶ 悟、彼を信じ指 者として仰いだ者たちの高い 理性、そして彼の究 の の 大さは、すべて彼の根本的な さを指し示している。ムハンマドを欺 者となすことは、 を解 するどころか、より多くの を生み出すのだ。さらには、西 国において、ムハンマドよりもその真 を められていない 史上の 人はいないのである。”

ジェ ムズ ミッチェナ 、 ‘Islam: The Misunderstood Religion’ in Reader’ s Digest (American Edition), May 1955, pp. 68-70:

“神の 示を受けた男、イスラ ムの 祖であるムハンマドは、西 およそ570年、偶像を崇 するアラビアの部族に生を受けた。生 もなく孤 となった彼は、いつも 者や困 者、寡 や孤、奴 や虐げられた人々のことを心にかけていた。20 で既に成功を めた商人となっていた彼は、やがて裕福な寡 が むラクダ 商の管理者となった。25 になると、彼の雇い主は、彼の美 を め 婚を申し出た。彼女は15 年上だったにも わらず、彼は彼女を娶り、彼女の生前は常に献身的な夫であり けた。

“彼以前のすべての主たる 言者たち同 、ムハンマドは自らの不 を感じ、神の言 の媒介者として仕えることを避けようとしたものの、天使は彼に「 め」と命じた。ムハンマドは文盲として知られているが、彼は 示された言 を き始め、それはやがてこの地球の大きな部分に革命をもたらすことになった。“神は唯一なり。”

“ムハンマドはあらゆることにおいて大いに 践的であった。彼がこよなく した息子イブラ ヒ ムが天逝した に日食が起こり、直ぐに人々の ではそれが神による特 な哀悼の意ではないかという噂がささやかれ出した。それに し、ムハンマドはこのように告知したと えられている。「日食は自然 象である。それを人 の生死に びつけることは、愚かなことである。」

“ムハンマドが逝去すると、彼を神格化しようという みが一部でなされたものの、 に彼の 治上の 者となる人物が、宗教の 史における最も高 な演 の一つによって、そのヒステリアを消し去った：「あなた方の中にムハンマドを崇 していた者があったなら、彼は死んだのである。しかしあなた方が神を崇 していたのなら、神は不死なのである。」”

マイケル ハート、The 100: A Ranking of the Most Influential Persons in History, New York: Hart Publishing Company, Inc. 1978, p. 33:

“世界史で最も影 力ある人物リストのトップに私がムハンマドを んだことは、一部の者を かせ、また一部によっては されるかも知れませんが、彼は 史上において、宗教と世俗の双方において究 的な成功を めた唯一の人物なのです。”

脚注:

1

マホメット教、マホメット教徒という用 は、イスラ ムへの理解の欠如から、キリストとキリスト教の における 推し 洋学者らが命名した 称です。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/197>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。